

「UD (ユニバーサルデザイン)」
という言葉をはじめて聞く人に
読んでもらいたい

やり方が違う
を考える

UD
TRY!4

ユニバーサル・デザイン・トライ! 4

やり方が違う編

ユニバーサルデザインの まちづくり



KOTO City In TOKYO
スポーツと人情が熱いまち 江東区

ユニバーサルデザイン(UD^{※1}) まちづくり^{※2}って何だろう

誰もが使いやすい まちをつくること

「誰も」って
だれのこと？

まちにはいろいろな人が暮らしています。「誰も」は、そのすべての人をさしています。

あなたも
「誰も」の中のひとりです
※9ページまで読んでください

「使いやすい」
って
どういうこと？

人には個性や特徴があり、「いろいろなやり方」があります。それぞれの人の「やり方」が尊重され、自分のやり方が選べること。そういうまちは「使いやすい」まちといえます。



※1 UD

ユニバーサルデザインは英語の頭文字でUDと表現しています。

※2 ユニバーサルデザイン(UD)まちづくり

江東区では、

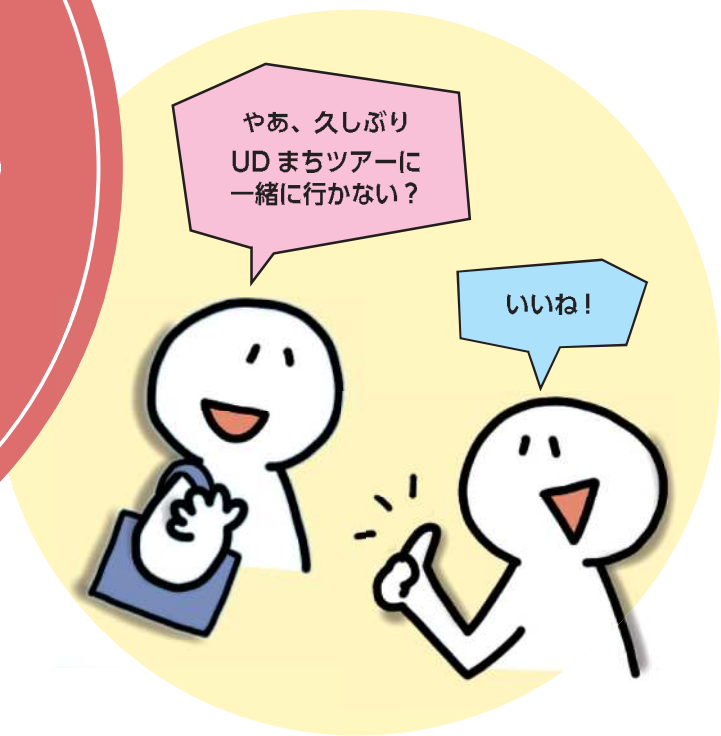
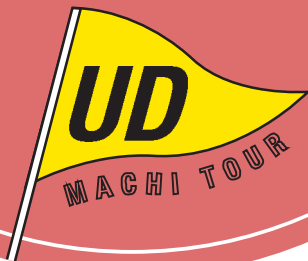
「年齢・性別・国籍・能力などの違いを尊重しつつ、誰もが使いやすく安全で安心な環境をつくるため、住民と事業者および自治体が協働で進めるまちづくり」と定義しています。



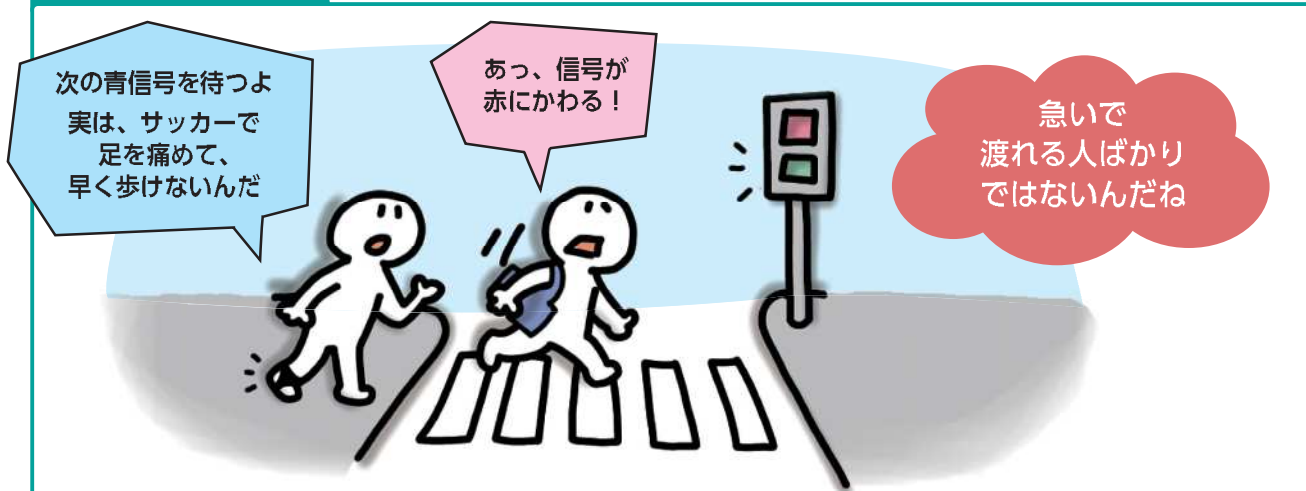
さあ、一緒に
UDまちツアーに出かけよう！

江東区では多様なメンバーとワークショップを積み重ね、UDまちづくりについて考えてきました。いま、私たちが考えるUDまちづくりをみなさんにわかりやすく伝えたいと、この冊子をつくりました。

いろいろな 仲間に出会える UDまちツアー



信号を渡ろう



いろいろな人

早く歩けない人は?

ほかにたとえば



松葉杖の人



ベビーカーを
押している人

- ・高齢者
- ・体力がない人 等

いろいろなやり方

- ・急ぎ足で渡る人もいますが、次の青信号まで待つ人もいます。



ゆっくり
歩く人



速く歩く人

使いやすくするための工夫

■まちの整備

- 1 青信号が延長される信号があります。
- 2 残り時間を知らせる表示のある信号があります。



■人の対応

- ・人それぞれのペースで行動していることを理解し、急かしたりしないことが大切です。
- ・グループで歩く時は、ゆっくりペースの人が先頭を歩くと、一緒に歩きやすくなります。

これで、ゆっくり歩く人も安心だね!



いろいろな人

案内サインが
使いにくい人は？

- ほかにたとえば
- ・文字を読むのが苦手な人等

いろいろなやり方

- ・「簡単な日本語」ならわかる人がいます。
- ・「外国語」や「ルビ」があると読める人がいます。
- ・人に聞く人もいます。

使いやすくするための工夫

■まちの整備

- ・「多言語」「ルビ付き」「やさしい日本語（参照コラム1）」等で表記された案内サインがあります。

■人の対応

- ・「やさしい日本語」や、指さし・身ぶりを使って伝えます。



主要施設が4カ国語表記の案内サイン【江東区】

いろいろな方法で情報が得られるといいね

次ページへ続く

「やさしい日本語」

コラム1

様々な国から、仕事や勉強のため等、いろいろな理由で日本に居住する外国人が増えています。中には日本語が十分に理解できない人もいて、生活に必要な行政からのお知らせや、緊急時の大切な情報が得られないこともあります。多言語対応は大切ですが、すべての言語に対応することは難しいので、日本語に不慣れな人でも理解しやすいように「やさしい日本語」を使った情報発信の取り組みも行われています。

日本語をわかりやすくする例

◎ 簡単な言葉を使う

◆例文

こちらに記入願います。

◆書き換え例

この紙に書いてください。

◎ 3つ以上のことを言うときは、箇条書きにする

◆文書き換え例

入会をご希望の方は、3つの申込み方法があります。

- 窓口での申込み
- ホームページでの申込み
- 電話・FAXでの申込み

「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」
(出入国在留管理庁/文化庁 2020.8) パンフレットより引用

次に、目が見えない人と会いました

東京スカイツリー®が見えた!



いろいろな人

ビューポイントが見つげにくい人は？

ほかにたとえば

- ・見えにくい人等
- ・視覚障害には全く見えない人だけでなく、見えにくい人もいて、その見え方は様々です。

いろいろなやり方

- ・風景の楽しみ方は見るだけではありません。音や風、香り等を感じて風景を楽しむ人、体に響く花火の音を感じて楽しむ人もいます。

使いやすくするための工夫

■まちの整備

- ・観光スポット等を、音声ガイドで鑑賞できることがあります。

■人の対応

- ・見えたものを言葉にすることで、視覚障害者と一緒に楽しむことができます。また伝えようとすることでより良く見ることになり、伝える人もさらに楽しめます。

見えたものを言葉にすると、楽しめる人が増えるんだね

次に、車いす使用者と会いました

どのお店で食事する？



いろいろな人

飲食店を自由に
選べない人は？

ほかにたとえば

- ・病気やアレルギーがある、宗教上の理由(参照コラム2)で食べられない食材がある人等



いろいろなやり方

- ・車いすに乗ったまま店に入り食事をする人が多いですが、店のイスに乗り移る人もいます。
- ・アレルギー等がある人は、自分が食べられない食材を知って避けています。

使いやすくするための工夫

■まちの整備

- ・段差にスロープを設置したり、テーブルやイスを移動しやすくすると、入りやすいです。
- ・使用食材の表記があると、選びやすいです。

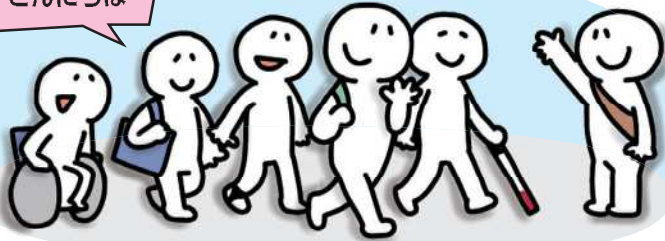
■人の対応

- ・移動の手伝いをします。
※ただし、手伝いが必要か、どのように手伝うかを相手に確認することが大切です。



行きたい店や食べたいものを自由に選べるといいね

こんにちは



次に、耳が聞こえない人と会いました

コーヒー買う時、どうする？

コンビニエンスストアのコーヒー、
どうやって買っていると思う？



スマホを
見せるのかな？

店員さんに、
コーヒー
メーカーの
方を指さして、
身ぶりをして、...



いろいろな人

レジでの
やりとりが
大変な人は？

- ほかにたとえば
- 日本語が苦手な外国人等



文字を空中に書く(空書き)

口形(話す口の形)で
伝える等



いろいろな方法があります。

いろいろなやり方

- 言葉で伝える
- 言葉が使えない時は、
- 手話
- 指さし身ぶり
- 筆談
- スマホで文字を打って見せる



使いやすくするための工夫

■まちの整備

- 受付等にコミュニケーションボードがあると、指さしで伝えることができます。



- 受け入れする側も、コミュニケーション
様々な人がいること
を理解しておく、慌てずに対応できます。

■人の対応

- 「いろいろなやり方」で示した方法でコミュニケーションがとれます。

コミュニケーションは、いろいろな方法でとれるんだね

次ページへ続く

「宗教による違い」

コラム 2

宗教上の理由で食べられないものや生活習慣の違いがある人がいます。例えばイスラム教では、以下のような考え方があります。

ハラール(許された行為・物)とハラーム(禁じられた行為・物)という考え方に基づく規範があり、ハラームを避けて生活すべきとされています。例えば、食における代表的なハラームは豚肉やアルコール飲料です。

参考「ムスリムおもてなしガイドブック」【観光庁】

「スマホは便利」

コラム 3

スマホは便利なツールで、聞こえない人が、文字を入力してそれを見せたり、書いてもらったりすることができます。ファストフード等でメニューアプリがあると、それを示して買いたい物を伝えることができます。でも、文字を入力するのにもちょっとした時間がかかります。簡単なことなら「指さし」や「身ぶり」の方が早いので、状況によって使い分けているそうです。



入ってみたら
障害のある人が
働いているお店でした

おいしそうなパンを売ってるよ



商品を並べて
撮影してるね、
何をして
いるんだろう

いろいろな人

働き方を工夫
している人は？

ほかにたとえば

- ・耳が聞こえない人
- ・通勤が難しい人等

いろいろなやり方

- ・話す言葉を文字にしてスクリーンに映し、他の会議参加者と内容を共有している耳が聞こえない人がいます。
- ・在宅で仕事をする働き方もあります。

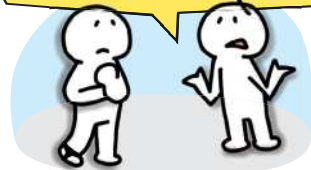
使いやすくするための工夫

- 商品を並べて撮影している理由は、、、
- ・配達する商品をノートに記録した上で、机に並べて写真に撮り、別の人が記録と写真の内容を確認します。これで配達ミスが減りました。
- その他の工夫
- ・毎朝自分でやりたいことを選びます。
- ・仕事はペアで行い、困った時は助け合います。

やり方を工夫するとできる人が増えるんだね

次に、持病がある人と会いました

その日の体調により疲れやすい
んだけど、一見問題がないように
見えるから、優先席に座ると
視線が痛い時があつて。。。



電車に乗ろう



優先席に
座っている人は、
なんらかの事情が
あるって思えると
いいよね

いろいろな人

気づかいが
必要だとわかり
にくい人は？

ほかにたとえば

- ・妊娠している人等

いろいろなやり方

- ・ヘルプマーク(参照コラム4)をつけている人もいます。
- ・マタニティマーク等もあります。



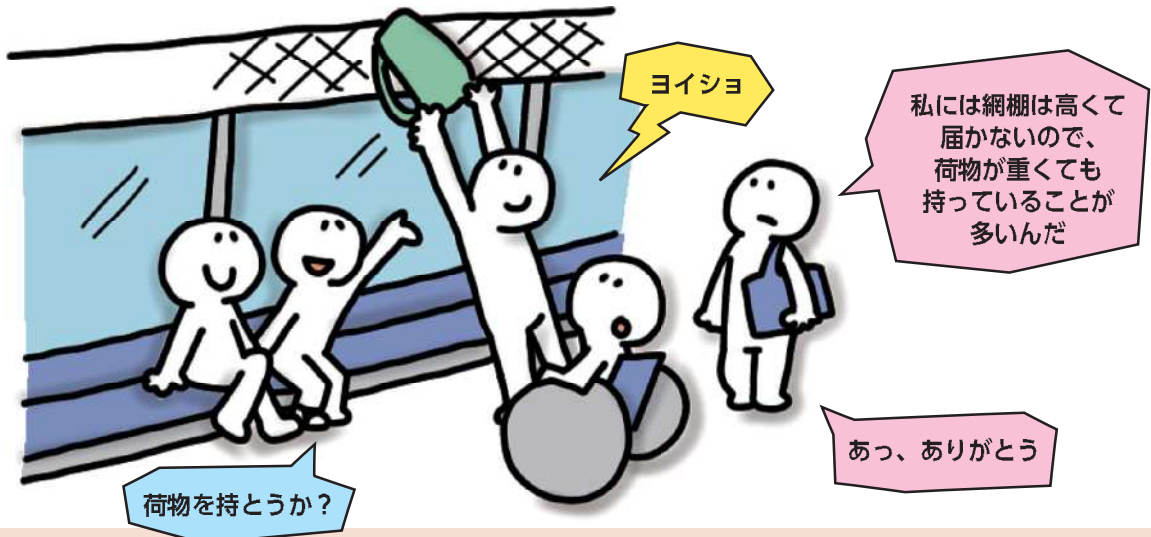
使いやすくするための工夫

■人の対応

- ・「障害者は優先席に座るものだ」と決めつけている人、「優先席があることで、それ以外の席はゆずらなくていい」と考えてしまう人もいます。
- ・手助けや気づかいが必要な人であっても、自分の体調のことを知られたくないと考え「ヘルプマーク」をつけない人もいます。

その場と一緒にいる人の様子を見て行動することが大切なんだね

あなたにもありませんか？ 苦手なこと、不便に思っていること



江東区 UD ワークショップ参加者に聞いてみました。

- 地図を読むのが苦手で、道に迷いやすいです。スマホアプリのナビで、進む方向を確認しています。
- 背が高いので時々頭をぶつけます。ぶつかりそうな所に、目立つ印があるとうれしいなあ。
- 男性にしては手が小さいです。女性にしては手が大きいです。手袋を選ぶ時は、メンズレディースに限定せず探すこともあります。サイズが増えるとうれしいです。
- 夏の冷房が苦手なので電車では弱冷房車両を探します。もう少し弱冷房車両が増えると助かります。



これで《UD まちツアー》は
おしまいです。
いろいろな仲間に出会えて、
いろいろなやり方が
あることがわかったね！



「ヘルプマーク」

コラム 4

義足や内部障害、妊娠初期の方等、外見からは分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、東京都が作成したマークです。

参考 東京都福祉保険局ホームページ

「多様性 ~まちにいるいろいろな人について~」

コラム 5

UD まちづくりでは、多様性を認め、包摂する社会のあり方が求められます。近年では、ダイバーシティ（多様性）とか、インクルーシブ（包摂的な）といった用語が使われることがありますが、いずれも、平等な社会のあり方をめざす考え方です。

ここでは「いろいろな人」についてその一部をご紹介してきましたが、他にももっといろいろな人がいます。たとえば、人とコミュニケーションをとることが苦手だったり、身体の性と心の性が一致しないことを社会に理解されず生きにくさを感じている人等もいます。

一人一人のやり方の違いを尊重し、すべての人の尊厳を守ることが、UD まちづくりの第一歩といえます。

目的は同じ、やり方が違う

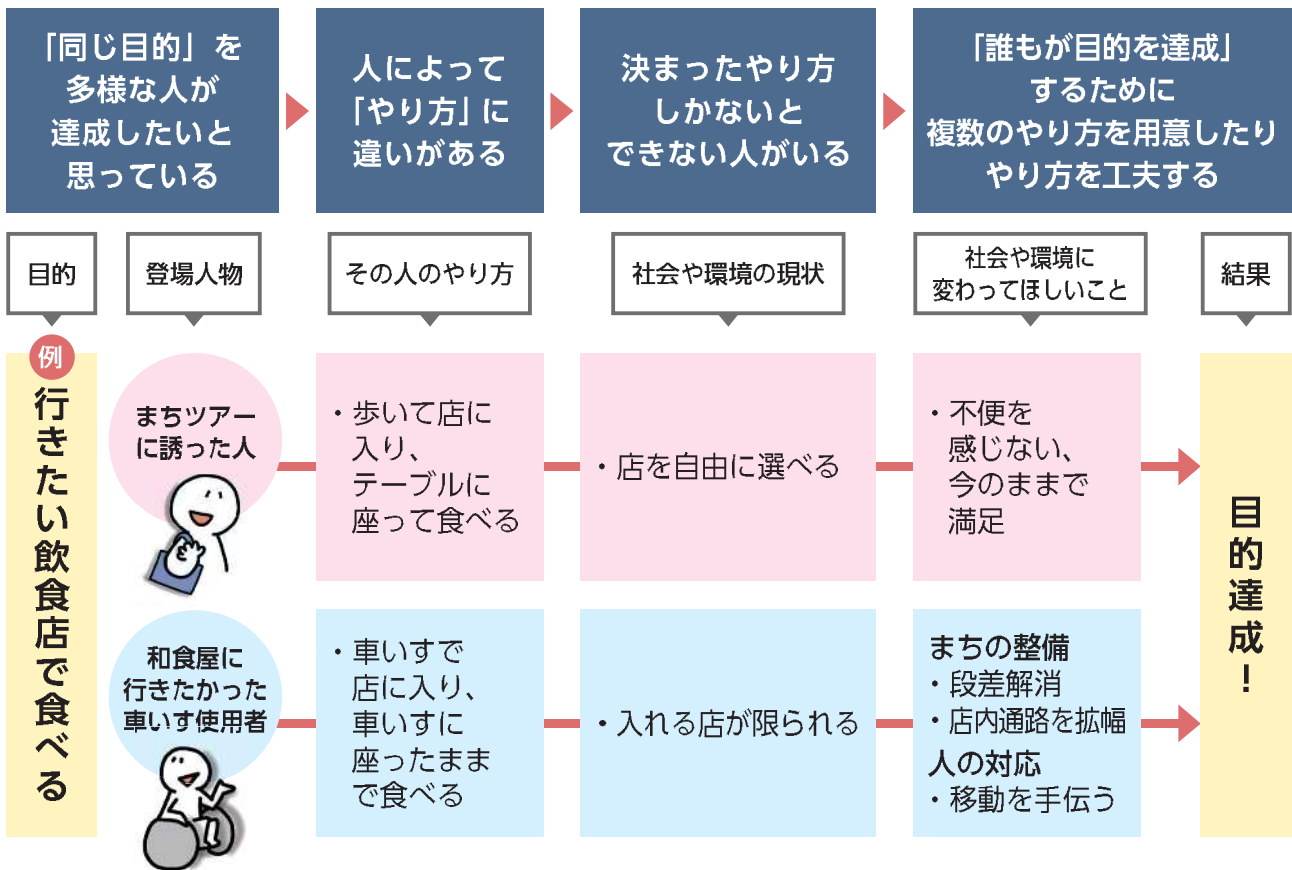
「いろいろな仲間と出会う《UD まちツアー》」、いかがでしたか。

それぞれの事情に合わせて、「やり方が違う」ことがわかりました。

でも、実際には、まちを使えなかったり、使いにくかったりする人がたくさんいます。

それは「いろいろなやり方」をしている人がいることを考えたまちに、まだ十分にはなっていないからです。

まちが「いろいろなやり方」で使えるようになったら、もっと多くの人がまちを楽しむことができます。その考え方を、下の図に整理してみました。



人とやり方が違うことを、「できなくても仕方ない」「余計な手間がかかる」とマイナスに考えるのではなく、いろいろな工夫があれば、誰もが、そしてみんなでも楽しめるようになります。

そうなった時、私たちは少し「ユニバーサルデザイン」に近づけたと言えます。

みんなで一緒に、誰もが使いやすく、楽しめる江東区をつくっていきましょう。

UD まちづくりについてのキーワード

多様性と UD まちづくり

UD まちづくりは、「誰も」が対象です。にもかかわらず、「障害者」のためのまちづくりと誤解されてきた面があります。これまで環境や社会的制度の整備の遅れによって、いわゆる「障害者」が不便を強いられたり、差別的な対応をされてきた経緯があり、その解消が重要な課題となってきたことも事実です。しかし、「障害」と認識されなくても、「道に迷いやすい」

「体が疲れやすい」等、誰もがどこかで困ったり、生きにくさを感じることがあるのではないのでしょうか。こうしたことも含めて、多様性はすべての人（あなたも）が抱える「グラデーション（色や明るさが連続的に変化する様子）のようにある」ものということができます。現実の社会では、性別、国籍、年齢、能力の違い等によって、様々なところで不平等が生じています。これらの解消も UD まちづくりがめざすことなのです。

《医学モデル》と《社会モデル》

今まで「障害」は主に本人の側に要因があると捉えられていたのですが、現在では社会の側に要因があるという捉え方に変わってきています。「障害」とは

《本人の側の要因》と《社会の側の要因》の相互作用によって生じます。つまり、「障害」をなくすためには、《社会の側》も変わらなければならないのです。

《医学モデル》

たとえば、車いす使用者が段差のあるお店に入れないのは、足が不自由で車いすを使っているからだと考えがちです。つまり、本人の側に要因があるという考え方です。この考え方は、障害者は弱い立場にあり、助けられる存在です。

《社会モデル》

入口に段差がある店に入れないのは、環境側の問題があるから、という考え方もできます。入口にスロープがあったり、支援があれば、たとえば車いすを使っている人も、買い物ができます。この考え方は、環境こそが「障害」なのです。

障害者の権利に関する条約（略称：障害者権利条約）

「医学モデル」と「社会モデル」の捉え方の違いは、「障害者の権利に関する条約」にも明記されています。この条約は、障害者の人権及び基本的自由の享有を確保し、障害者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的としたもので、2006年に国連総会において採択されました。日本は「障害者基本法」の改正や「障害を理由とした差別の解消の推進に関する法律（差別解消法）」等、関連する国内法を整備し、2014年にこれを批准しました。

「医学モデル」と「社会モデル」の捉え方の違いは、「障害者の権利に関する条約」にも明記されています。この条約は、障害者の人権及び基本的自由の享有を確保し、障害者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的としたもので、2006年に国連総会において採択されました。日本は「障害者基本法」の改正や「障害を理由とした差別の解消の推進に関する法律（差別解消法）」等、関連する国内法を整備し、2014年にこれを批准しました。

合理的配慮

UD まちづくりで重要なのは、「複数のやり方を用意すること／やり方を工夫すること」です。たとえば、車いす使用者が買い物をしたいのに店の入口に段差があって入れない場合、その目的が達成できません。この時、買い物ができる人とできない人がいる＝「差別」の状態が生じています。それを解消するために必要なことが「合理的配慮」です。その人が求める時には、それが過重な負担でない限り、

車いすが入るように手伝ったり、入れなければ商品を持ってきたりして、買い物ができるようにしなければなりません。ほかに、見えない人に商品説明したり、聞こえない人に筆談をする、といった対応をすることも「合理的配慮」といえます。障害者権利条約や障害者差別解消法では、差別的な行為をすることだけではなく、合理的配慮の提供がなされないことも「差別」であるとしています。

平等と尊厳

なぜ、差別がいけないのか。それは差別された人の「尊厳」を傷つけ、「人権」を侵害するからです。これらの考え方の基本にあるのは、すべての人の平等と尊厳

を守るという考え方です。誰もが自分のやり方で、やりたいことが達成できるようなまちをめざすこと、それがUDまちづくりなのです。

この冊子は、「令和2年度 江東区ユニバーサルデザインまちづくりワークショップ」に参加した区民と区職員が体験や意見交換を重ねた中からつくられました

第1回

7/12(日)
13:30 - 17:00



参加者の感想より
なぜUDが必要か、
なぜ差別がいけないか、
わかってきた

●オリエンテーション

●講座「UD ってなんだろう？」
アドバイザーの川内美彦さんから、「社会モデル」や「尊厳」についてのお話を伺いました。

●ビデオ上映・寸劇

車いす使用者や視覚障害者にご協力いただき、日常生活で困っていることや工夫していることを映像に収め上映しました。



第2・3回

9/5(土)
10:00 - 12:30
13:30 - 16:00



●まちで考える 移動やお店やり方が違う人でグループをつくり、「みんなで楽しめるUDツアー」を考えました。

参加者の感想より
工夫して違うやり方を見つけて、
みんなで楽しめると、
なんだか気持ち良かった!



第4・5回

11/7(土)
10:00 - 12:30
13:30 - 16:00



参加者の感想より
「全国どこでも商品やレジの配置が変わらないので買いやすい」とコンビニエンスストアを選んだ人が結構いた

●まちで考える 情報

「飲み物を買う」という同じ目的を設定し、それぞれがどこで買うかを考えました。



第6・7回

12/5(土)
10:00 - 12:30
13:30 - 16:00



●様々な立場の人の「社会参加・働く」を考える

様々な人が働く、ふれあい工房「ゆめま〜る」を訪問しました。



参加者の感想より
「できないことがあった時、それは1つの方法を試ただけで、別の方法を考えればいい」というお話に目からウロコ

第8回

書面開催
1/25(月)～2/1(月)

●冊子案を検討する

冊子案を参加者に事前送付し、メールやFAXで意見をいただき、その内容を冊子に反映させました。



江東区 UD TRY! 4
「やり方が違う」
を考える
ユニバーサル
デザインの
まちづくり

編集・発行 江東区都市整備部まちづくり推進課
〒135-8383 東京都江東区東陽四丁目11-28
TEL 03-3647-9781 FAX 03-3647-9009
作成・編集協力 場所づくり研究所プレイス
〒156-0044 東京都世田谷区赤堤3-3-18
TEL 03-3324-0365 FAX03-3324-0376
アドバイザー 川内美彦(アクセシビリティ研究所主宰/
東洋大学人間科学総合研究所客員研究員)
デザイナー カタヤナギユウイチ イラスト 絹村亜佐子